

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400061		
法人名	(株)桜梅桃李		
事業所名	グループホーム 和楽の家 東兎(桜ユニット)		
所在地	岡山県玉野市西田井地2256-1		
自己評価作成日	平成24年1月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390400061&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成24年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①日笠CL(精神科)奇数月第一水曜日往診 ②近藤医院(内科)毎週水曜日往診 ③プライムケアデンタル(歯科)毎週月曜日往診 ④訪問リハビリ毎週月、木曜日 ⑤訪問理容毎月第4土曜日 ⑥音楽療法毎月第2水曜日 ⑦メルヘンパン第一、三週水曜日 ⑧リエゾンパンその他の水曜日 ⑨スタッフの研修制度が充実している	・認知症の専門医である日笠尚知医師が母体の理事である ・毎食後口腔ケア施行にて口腔内清潔が保たれている ・日常生活を自宅に居る時と同じように暮らせるように生活支援を行っている ・メルヘン移動車を玄関に横付けし、入居者が好きなパンを選んでいる ・少人数で近くのスーパーへ買物に行っている ・裏の畑で収穫した新鮮な野菜を使って入居者と一緒に調理している ・毎月1回勉強会を開催している ・季節のイベント時各種ボランティアが来てくれる ⑩平成23年度の目標達成計画2項目が実施できた
--	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玉野市でも東寄りに位置する「和楽の家 東兎」は、静かな環境・穏やかな気候風土に包まれている。しかし、一歩ホームの中に入ると、元気はつらつたの利用者と職員の笑い声や歌声に遠慮の無い掛け合いでなかなかの賑いだ。今日の昼食はホットプレートでお好み焼き。手慣れた焼き手の見事な返しをお世辞でなく誉めると、皆得意満面。「たこ焼きも、とっても上手」と職員も頷いている。「これでも今日は静かな方。いつも本当はね…」といった日常の暮らしを裏打ちしているのは、職員の数々の献身的なケアの賜物だろう。献身的と言っても、職員も利用者と共に楽しもうといった空気がとても良い。とりわけ素晴らしいと思ったのは「本人のつづやき集」「本人の歴史年表」の作成だ。一人ひとりの利用者にとことん向き合って楽しもうという、職員の愛情がよく伝わってくる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個々の職員の改善目標、又ホーム全体の目標を掲げて定期的に評価している。自分自身の振り返りができ少しずつではあるが次へ繋げている。	「理念」感謝と笑顔は自分自身の生き方とも共通している」「感謝の気持ちを忘れずに皆で協力して生活していきたい」職員達はそれぞれの言葉で思いを語ってくれた。理念が単なる言葉を越えて無理なく日常生活の中に深く浸透しているのを感じた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の日、入居者と一緒に買物に行っている。夏祭り等行事の際、地区の皆様が来られ交流している。傾聴ボランティアの方が来られて交流している。年間を通して畑作りの際地区の方と交流が図れている。年2回地区の清掃にも参加している。	小学校の運動会や発表会に出かけたり、ホームの夏祭りに来て貰う等無理のない地域交流を行っている。「ここどんなとこなら？」近所の人に来て見学し「将来ここで暮らしたい」と言って帰る等、突然の来客も快く受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玉野市の協力を頂き認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の方への理解を深めて頂けるように地域の皆様・家族等約40名に参加して頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	勉強会、夏祭り、防災訓練、その他イベント時に運営推進会議を開きホームでの活動を実際に見て頂いたり、気が付いたこと等を話し合い、質問があれば書面にて回答しご家族に送付している。	ホームの年間計画の中に運営推進会議も組み込み、定期的に確実に実施できている。ホームの行事と同時開催する等の工夫もあり、家族の参加がとて多い。出席者には会議後アンケートをして意見を求め、今後活かす取り組みもしている。	運営推進会議をホームの行事と組み合わせ、家族もよく参加してとても良い会となっているが、参加者同士の意見交換や情報交換の場をもう少し多く設定し、ホームの運営に生かされると、もっと良くなるだろう。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症サポーター養成講座の際、協力を頂いた。また、日頃から介護保険課担当者の方と連絡を取り合っている。	何かあれば市町村担当者に連絡して、指導・助言を受けている。他の参加者の都合もあり平日の昼間に運営推進会議を開催できないので、市町村担当者に出席して貰えないのが残念だが、地域包括支援センター職員には1回参加して貰えた。今後も運営推進会議出席をお願いし、ホームの実情を伝え、協力関係を築きたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会をして、当施設の現状把握をしている。ペットサークル使用の入居者様については、身体拘束の記録を記載している。玄関の施錠は、夜間(18時～9時)のみで日中は開放している。	”高齢者虐待防止について””身体拘束について”等の勉強会を実施し、職員間で認識を共有して身体拘束をしないケアの実践を徹底している。本社からも身体拘束の定義に照らし合わせた様式のチェックリストが提示され、毎月全職員で話し合いながら振り返り検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どういことが虐待なのかを勉強会で学習している。職員間で注意をし合えるような関係作りを目指している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強会等を通して詳しく学ぶ必要性を感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行うのは、本社役員、エリアマネージャーで行っている。十分な説明を行い、不明な所を質問として受けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1回、運営推進会議を行い欠席の家族や地域の方に内容を文章にて知らせている。意見や要望を聞いて、それに対する返事も文章で送付している。	毎月個別の家族通信を送付して情報提供に努め、何かあればすぐに連絡し合って相談している。日常的な面会も多いが、年2回家族会を実施し、運営推進会議には10人前後の家族出席がある等、話し合える機会も多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者が職員に運営についての意見をしっかりと聞き、本社に改善を求め改善につなげている。	「会社には”言うだけは言うてね”と言われているので、要望はしっかり伝えてます」管理者は明るく笑う。母体法人の運営方針がしっかりしていて、エリアマネージャーを仲立ちに現場の声を大切に汲み上げようとする姿勢を感じた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者は職員に待遇についての意見や要望をしっかりと聞き、本社に改善を求め改善につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修、勉強会等施設での研修を実施している。また、個々の職員の状態に合わせて外部の研修を受けさせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームや介護保険課と会合を持ち、情報交換やそれぞれの取り組み等を発表している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活史を理解し、それを踏まえた上で統一した利用者支援を心掛けている。尊厳を持った関わりを目指し、各々の利用者の思いを傾聴するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	丁寧な面接を通しての家族の精神的負担・孤立を軽減できるよ努めている。家族と連携しながら入居者の生活環境を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接を通して得た情報を元に、アセスメント後1カ月後を目途にした暫定プランの作成、入居後際アセスメントをしその時の状態に応じたプランの立案をしている。必要に応じ、他のサービス利用も視野に入れる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のこれまでの生活史を把握し、家事、料理等出来ることは職員と共に行い、役割を持ち生活できるように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族通信を送付し担当職員が1カ月の生活の様子を記入し情報を共有している。運営推進会議には、行事を組み入れ多くの方に参加して頂けるよう努め、話し合いの場を設けて理解を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院、病院の受診など家族の協力を得ている。	「ここに居るんじゃないかなあ」訪ねてきた地域の友人や親せきの人を、本人と共に大喜びで受け入れる。外出した時ちょっと足をのばして、昔の職場や自宅をドライブする。利用者の故郷の花の名所へ皆で花見に行く。馴染みの人や場との関係継続の為に温かい支援ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時等、職員が入居者同士のコミュニケーションが取れるよう支援している。入居者の相性を考慮し共同作業をすすめている。居室で過ごすことの多い方とは共にお茶や会話を楽しむ時間を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の様子を尋ねたり、必要に応じて家族との支援作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	グループワーク時に、現在の生活はどうか、どうしたいか尋ねたり、話の中で皆さんの思いを話してもらう。状態が変化すればその都度職員全体で考えている。	「ここの職員さんは怒るすべを知らんのじゃ。ほやから、うちら何言うてもええんよ。ほんまにここは、我がうちよりええよ。そりゃあ我がうちじゃったら、何ばり言うたら家のものとケンカになるよ」利用者は自宅以上に自分の思いを発散していた。	利用者がふともらしたつぶやきや「えっ」と驚く様な言動を拾い記録しているのは、職員間で共有したり後のケアに役立てられてとても良い。今後も話し合いで負担にならない方法を工夫しながら、是非継続して欲しい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴、生活史、職歴、趣味等、入居に至るまでの経緯を十分に把握する。家族とも連絡を密にし、家庭での様子等の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の日課表に添った生活の中で、残存機能を活かし生き生きとした暮らしができているか、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月個別カンファレンスを行い、課題があれば話し合い改善を目指している。又、家族の意向も事前に聞いている。	本人・家族の言葉から把握した意向を基に、何で困っていてどうしたいかを中心に目標を立て、その結果どうなり、これからどうするかを検討してプランを組み立てる独自の様式を工夫していた。プランに至るプロセスも判り易くてとてもよい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その方の日常の様子、スタッフのケアの実践状況等、細やかな個別記録を通して情報の共有を図り、介護に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて、家族と何度も話し合い柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が安心して地域で生活できるよう、家族、地域の方と意見交換する機会を設けている。運営推進会議に市関係者、地域包括支援センターの方が参加し、周辺情報等の情報交換、協力関係が築けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医、入居前のかかりつけ医での医療が受けられるように医療機関と関係を密に結んでいる。必要に応じ家族と共に同行し、普段の様子を伝えるようにしている。近況の情報提供書を送付している。	原則として受診は家族にお願いしているが、電話や情報提供票を提出して情報を伝え、それぞれの利用者のかかりつけ医との連携を図っている。母体医療法人のDr以外に週1回協力医の往診もある等、医療連携は充実している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、常に入居者の健康管理や状態の変化に応じた支援を行っている。体調や些細な表情の変化でも気付いたら報告し適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師と話をする機会を持ち、施設内での対応可能な段階で早く退院できるようアプローチしている。入院時には本人に関する情報提供している。出来るだけ面会に行き、家族と回復状況等情報交換しながら速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向本人にとってどうあったら良いのか、施設が対応しうる最大の支援方法を踏まえて方針を職員で話し合っている。外部や内部での研修、講演会等で意識向上を図っている。家族の協力も得ながら医師、職員が連携を取り安心に納得した最後が迎えられるように随時意思確認を行いながら取り組んでいる。	現時点では該当するケースはないが、“看取りケアの実践”の研修を受け、全職員で認識の共有を図っている。家族や医療機関との協力体制等もよく検討しつつ、職員ともよく相談して、今後については慎重に考えていきたいと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署、岡大医学部学生の協力を得て、救急手当てや蘇生術の研修を実施して、入居者が急変した場合の緊急時対応についてマニュアルを作成し、職員が落ち着いて対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議後に非常災害時の勉強会をし、その後近年危惧されている大規模地震を想定した避難訓練を行った。火災についてはスプリンクラー、火災通報装置、消火器設置しておりそれらの使用方法を全職員に周知徹底を心掛けている。	海や用水路が近く、昔、高潮被害もあった土地柄なので、津波や高潮・地震等の災害への対策に力を入れている。台風の時、避難勧告が出た事を教訓に、土のう作りを考えている。運営推進会議でも話し合い、地域との協力体制もできている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	色々な場面でプライバシーを尊重したケアを心掛けている。入居者を人生の先輩である意識しながら声かけを行っている。居室の入り口には、のれんをしている。また、トイレ前にカーテンをし、プライバシーの保護をしているトイレもある。	ホームは利用者ひとり一人をよく知り、その人に合った支援をしたいと考え、日常生活の中での何気ない言葉を拾い上げ”つぶやき集”を作成し、更に発展して家族の協力も得て”自分史年表”に取り組む等、その人らしさを大切にしたい対応がよくできている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝、コーヒータイムで入居者の間に職員が入り、グループワークを行っている。(主役体験)外出、行事食等は、グループワーク時等に入居者様の意見、希望を聞き入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、毎日の生活を自分のペースで行えるように相談しながら行っている。買物、調理、散歩等望まれることで、職員と共に楽しめるように個別対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事の際、お化粧等のお洒落を楽しんでもらえるように取り組んでいる。更衣時は好みの物を共に用意している。訪問利用を利用しているが、行きつけの店がある方は、その店を利用できるよう連携を取っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、後片付け等入居者と共に行い、食事は、職員も同じ物を食べながらテーブルを囲み明るい雰囲気での食事を心掛けている。家庭菜園で採れた新鮮な野菜を取り入れ、季節感を感じながら食欲増強に努めている。	「私はちょっと」昼食のお好み焼きに手をつけぬ人がいた。「焼き飯上手な人がいるんよ。焼き飯なら食べれそう？」さり気なく職員が受けて、手早く代替えの炒飯を提供し、「美味しい」完食する場面もあった。ホームの畑で収穫した旬の野菜等も活用した食事は皆の楽しみになっていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューはバランスを考えて職員が考えている。水分、食事摂取量の把握を行い、個々の体調管理に努めている。体調等に合わせ、食事が摂れない場合は高カロリーの補助食品や、本人の好む物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行って状態に合わせて仕上げ磨きを行っている。訪問歯科を利用しており、口腔ケア方法の指導も職員が受けている。毎週、義歯洗浄を行い、清潔を保てるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い、個々の排泄状態の把握に努めている。様子観察をしながら失敗のないようにトイレ誘導等の支援をしている。また、状態に応じて紙パンツやパット類を使用しており、随時変更を行っている。	トイレ入り口に、暖簾やカーテンを配し、プライバシーに考慮した支援を行っている。その人の状況に合わせ、便座のふたを取ったり、ポータブルトイレを居室に入れる等して、失禁が減る等効果があった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳を飲み、手作りヨーグルト、バナナ等の食材を積極的に取り入れている。何種類かの飲み物を用意し、個々に合わせた水分補給の支援をしている。体操など薬に頼らない生活を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の意向に添うよう、職員交代等を入浴介助を行うことがある。仲の良い入居者同士入浴している場合もある。時に夜間入浴も行っている。入浴拒否の方には色々な工夫で入浴の支援をしている。	できる限り週2回は入浴して貰う様支援しているが、入浴拒否の人には、「明日は往診で先生に診察して貰うから」上手く声かけ、洗髪が嫌いな人にはドライシャンプーにする等工夫して、機嫌よく入浴する様、誘っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡を取り入れたり、心地よく眠りにつけるように日中の活動に配慮している。入居者の体調、生活スタイル等を考慮し、休息がとれるよう支援をしている。入眠前の関わり工夫をし自然な入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は日付、名前、時間を声に出して自他共に確認を行い、事故防止に努めている。薬の処方や量に変更があれば申し送り、詳細に記録をして状態観察し、異常あれば医療機関との連携も図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族の情報や、本人との会話の中から趣味や役割を見つけ、個々に合わせて楽しみながら出来るように工夫している。遠出の外出や季節毎のイベントを行い、季節感を感じながら気分転換できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	入居者と買物、散歩、日光浴等の外出の支援をしている。四季の景色や雰囲気を楽しめるよう季節毎に遠出をしている。外食も楽しんでいる。大きな行事には、家族、地域の方々に参加して頂き交流を深めるように努めている。	年間行事に組み込み全員参加で、初詣・花見・一日旅行。「ちょっと行ってみるか」その日その時その気になった人への個別支援で、近所にドライブ・花火大会やイルミネーション見物等、よく出かけている。	現在実施している外出支援は可能な限り継続して欲しい。と同時に「利用者と家族や親族・友人等と外出する」といったチャンスを少しでも増やし、馴染みの関係も継続できる様家族にも協力を働きかけていきたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の安心や満足の為、家族と相談しながら小額を手元を持ってもらい、自分で買物ができるようにしている。それとは別に家族から預かったお金を事務所で管理し、買物等で使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話がかかると相談室にて話をし、頂き、ゆっくりと電話ができるようにしている。 年末には、年賀状が出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・ホールには花・作品を飾り、季節感を取り入れた雰囲気作りをしている。1ユニット毎に1ヶ所のトイレにドアとドアの前にカーテンを設置し、プライバシー保護を図っている。入居者の状態に合わせ、テーブルやソファの配置換えをし気分転換をしている。	「ここは明るかろう。暗かったら気分が滅入るが、陽がいっぱい入ってええよ。だいぶ違うよ」木のぬくもりを活かした造り・高い天井・天窓を指さしながら、利用者が話してくれた。彼女はここがとても気に入っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを2か所に分け設置するなど、1人で、また、気の合う入居者様同士で過ごせるように工夫している。 廊下・玄関にイスを置き、景色や写真を見ながら、家族・入居者様同士で寛いでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた筆筒等を置き、本人が安全で使いやすいように配置している。思い出の写真等を持ち込み、穏やかに過ごせるようにしている。プライバシー保護の為、居室の入り口には、のれんをしている。	亡き夫や愛犬・家族の写真、誕生日プレゼントの色紙や日本人形・マスコット等を飾る人や、タンスやイス、洋服掛けを持ち込む人もいて、その人らしい居心地の良さそうな居室になっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人のできること・わかることを見極め、トイレ・居室前・洗面所等に目印をつけて、また、物の配置も工夫している。 廊下・トイレ内・洗面所・浴室等に手すりを設置している。		